

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 8日

所属・職名	商経学部 専任講師	氏名	中尾 将人
研究課題	最適通貨圏条件に関する理論的分析		
研究キーワード	ユーロ, 最適通貨圏, 景気循環	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究では、「ケインズ動学を用いた景気循環の安定性の観点から最適通貨圏条件を考察することで、最適通貨圏理論の枠組みを再構築する」ことを課題とした。そのために、本研究ではケインズ動学の観点から最適通貨圏条件を整理することを目的とし、景気循環の安定性の観点から、既存の最適通貨圏条件の一つである、「経済の開放性」条件と、超国家的中央銀行による金融政策について分析した。</p> <p>本研究の成果として、経済の開放度が高いことが景気循環を安定化させることを、ケインズのマクロ動学モデルを用いて解析的に示し、また、シミュレーションによってその様子を表した。この成果は <i>Evolutionary and Institutional Economic Review</i> に掲載された。また、超国家的中央銀行による金融政策については <i>Nonlinear Economic Dynamics 2019</i> やケインズ学会にて報告した。しかし、この成果をまとめた論文作成に遅れが発生したため、今後も継続して作成する。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>論文</p> <p>① Nakao, M. (2019) “Stability of business cycles and economic openness of monetary union: A Kaldorian Two-country Model,” <i>Evolutionary and Institutional Economic Review</i>, Vol.16, Issue 1, pp.65-89.</p> <p>学会発表</p> <p>② <u>Nakao, M.</u> and T. Asada “Business cycles and government bond purchase by central banks in monetary union,” <i>Nonlinear Economic Dynamics 2019</i>, Kyiv, Ukraine. September 2019.</p> <p>③ <u>中尾将人</u>・浅田統一郎, “Business cycles and government bond purchase by central banks in monetary union,” ケインズ学会, 東京, 2019年.</p> <p>3. 主な経費</p> <p>論文作成のためにPCやプリンタを購入した。また、京都大学での研究会へ出張した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>千葉商科大学 2020年度学術研究助成金 個人研究, 課題名「小国における経済開放度が景気循環に与える影響」</p> <p style="text-align: right;">(本文は1ページ以内にまとめること)</p>			